

MIC **ベネビア**[®] OD 野菜散布用殺虫剤

powered by
CYAZYPYR[®]
ACTIVE INGREDIENT



**すばやく食害をストップして、
葉裏の害虫も逃さない。
害虫の密度を抑制して、
作物を長期間守ります。**

農林水産省登録：第23752号

2020年7月現在

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗淨水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。



三井化学アグロ株式会社
東京都中央区日本橋1-19-1日本橋ダイヤビルディング
ホームページ <http://www.mitsui-agro.com/>

BNV3C3D

すばやく食害をストップして、葉裏の害虫も逃さない。 害虫の密度を抑制して、作物を長期間守ります。

はじめに

ベネビア®ODの有効成分シアントラニリプロール(通称:サイアジピル®)は、世界で2番目のアントラニリックジアミド系殺虫成分です。日本においてベネビア®ODは葉菜・果菜・大豆等の野菜・畑作向けの散布専用殺虫剤として開発され、2014年10月に農薬登録されました。サイアジピル®は、幅広い殺虫スペクトラム、速やかな食害停止効果、優れた残効性により、害虫の密度を長期間抑え、作物を保護する特長を有しています。ベネビア®ODはジアミド系特有のチョウ目害虫、ハエ目害虫に対する優れた効果に加え、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ等にも卓越した効果を示します。一方で、有用昆虫(天敵・訪花昆虫)への影響は少なく、IPM(総合的病害虫・雑草管理)に適しています。また、害虫への効果発現が早いことから、害虫によるウイルスの媒介抑制効果も確認されており、新たな害虫防除体系の確立に貢献できる製品として期待されています。

1. 作物別の防除効果について詳しく

果菜類、いちご、葉菜類、だいこん、たまねぎ、ねぎを取り上げて、試験事例の他、防除のポイントなどもご紹介しています。

2. 効果発現は速やか

害虫がすぐに死に至らないことで効果がないと思われてしまいがち。サイアジピル®は筋収縮を起こし、速やかに活動を停止させます。効果発現、吸汁行動・食害の停止の速やかさをご確認ください。

3. 幅広いのは殺虫スペクトラムだけではない

幅広い害虫のステージ(幼虫、成虫、孵化幼虫)に効果を示します。また成虫の配偶行動阻害による産卵抑制もみられます。次世代の密度を抑制し、害虫の被害を長期間抑えます。

4. 混用事例が充実

TPN剤、ストロビルリン系剤、銅剤との混用、展着剤の加用事例が追加されました。

はじめに	2
トピックス	2
5つの優れた特長	3
作用特性	4
成分・性状/安全性	4
殺虫スペクトラム	5
有用昆虫への影響	6
果菜類	7~9
いちご	10~11
葉菜類	12~13
だいこん	14
たまねぎ	15
ねぎ	16~17

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

速やかな効果発現	18
食害停止効果	18
ウイルス媒介抑制効果	19
各ステージへの影響	20
浸達性	21
局所移行性	22
耐雨性	22
OD製剤とは	23
適用害虫と使用方法	24~25
混用事例	26~27

トピックス

目次

5つの優れた特長

1 幅広い殺虫スペクトラム

コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類や、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、コナガ等のチョウ目害虫等の幅広い害虫種、害虫の各ステージに高い効果を発揮します。

詳しくは5・20ページへ

2 速やかに食害をストップ ウイルス媒介の抑制効果も

害虫の摂食・吸汁行動を速やかに停止させます。害虫によるトマト黄化葉巻病、きゅうり黄化えそ病のウイルス媒介を抑制する効果も認められています。

詳しくは18・19ページへ

4 有用昆虫、周辺環境等に対する高い安全性

天敵導入中の散布ができ、訪花昆虫は散布翌日の放飼が可能です。

詳しくは4・6ページへ

3 約2週間の長期残効

長い残効性(約2週間)を有し、長期間にわたって害虫の被害から作物を保護します。

5 独自のオイル製剤で 葉裏の害虫も逃さず防除

オイル製剤による優れた浸達性と局所的な移行性、耐雨性を示します。葉裏に隠れた害虫まで有効成分が到達し、また、散布ムラによる効果の変動を減らします。

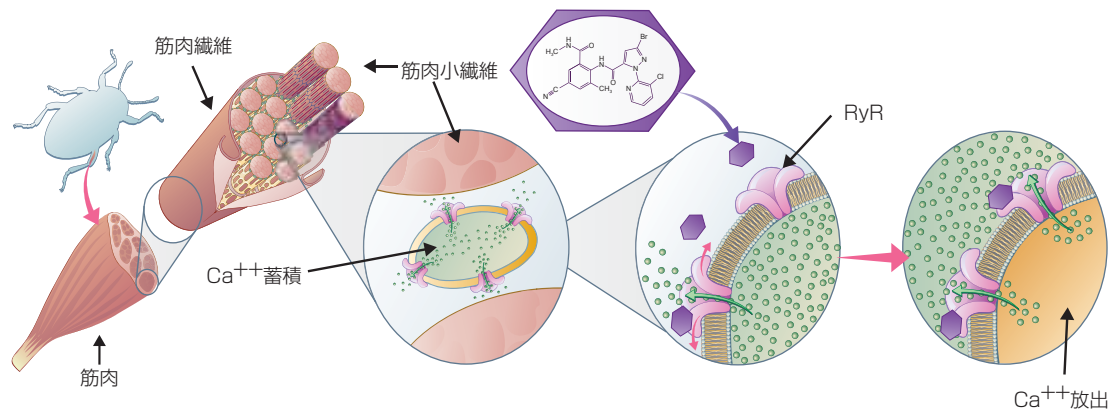
詳しくは21~23ページへ



作用特性

筋肉細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整することにより筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。サイアジピル[®]は筋小胞体のリアノジン受容体 (RyR) に結合して筋小胞体のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、昆虫は筋収縮を起こして速やかに活動を停止し、死亡します。また、昆虫のリアノジン受容体に選択的に作用し、ヒトの受容体に反応しないことがヒトへの安全性が非常に高い理由です。

サイアジピル[®]作用機構



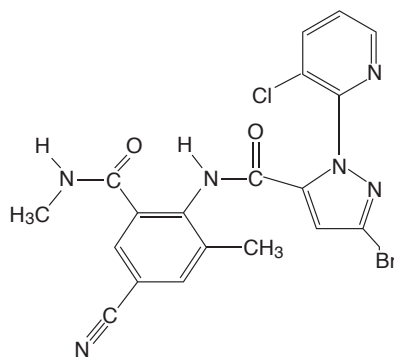
サイアジピル[®]は昆虫の筋肉に作用して昆虫の行動に影響を与えます。

成分・性状

- 委託試験番号：XI-06010D
- 有効成分：シアントラニリプロール 10.3%
- 化合物の系統：アントラニリックジアミド系
- 物理化学的性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
- 有効成分の通称：サイアジピル[®] (Cyazypyr[®])
本剤は単剤のみならず様々な混合剤も開発しますので、商品名や一般名とは別に、どの剤型や混合剤に含まれていても確認しやすいように、上記通称を名付けました。

■ IRACグループ：殺虫剤分類 28

構造式：



安全性

- 哺乳類、鳥類、魚類への影響(原体)
哺乳類、鳥類、魚類に対して高い安全性を示します。(普通物*相当)
急性経口毒性(ラット) LD50 >5000mg/kg (♀)
急性経皮毒性(ラット) LD50 >5000mg/kg (♂ ♀)
急性吸入毒性(ラット) LC50 >5.2mg/l (♂ ♀)
皮膚刺激性(ウサギ) 刺激性なし (製剤) 刺激性なし
眼刺激性(ウサギ) 刺激性なし (製剤) 刺激性なし
皮膚感作性(モルモット) 感作性なし (製剤) 感作性あり
*普通物とは、毒劇物に該当しないものを指している通称
- 有用動植物への影響
(1) 水産動植物への影響
魚類急性毒性(コイ) LC50(96時間) >16mg/l
ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ) EC50(48時間) >20.4μg/l
藻類生長阻害(緑藻) EC50(72時間) >13mg/l
(2) 鳥類への影響
急性経口毒性(コリンウズラ) LD50 >2250mg/kg
混餌投与毒性(マガモ) LC50 >5620ppm
混餌投与毒性(コリンウズラ) LC50 >5620ppm

コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類、また有効成分サイアジピル[®]ならではのチョウ目害虫など幅広い害虫に優れた活性を示します。

サイアジピル[®]として確認されている殺虫スペクトラムは下記の通りです。

目	害虫名	活性	作物群
チョウ目	コナガ	○	野菜
	アオムシ	○	
	ヨトウムシ	○	
	ハスモンヨトウ	○	
	オオタバコガ	○	
	シロイチモジヨトウ	○	
	ツマジロクサヨトウ	○	
	ハイマダラノメイガ	○	
	ウタヘリクロノメイガ	○	
	ネキリムシ類	○	
	カブラヤガ	○	
	タマナヤガ	○	
	ウリノメイガ	○	
	ナカジロシタバ	○	
	ウワバ類	○	
	イラクサギンウワバ	○	
	タマナギンウワバ	○	
	アワノメイガ	○	
	シロオビノメイガ	○	
	オオタバコガ	○	
ナカジロシタバ	○		
キアゲハ	○		
ナガイモコガ	○		
ネギコガ	○		
モモシンクイガ	○		
モモノゴマダラノメイガ	○		
スモヒメシンクイ	○		
ナシヒメシンクイ	○		
キンモンホソガ	○		
ギンモンハモグリガ	○		
リンゴコカクモンハマキ	○		
トビハマキ	○		
ミダレカクモンハマキ	○		
モモハモグリガ	○		
ミカンハモグリガ	○		
オオタバコガ	○		
ケムシ類	○		
アメリカシロヒトリ	○		
クワゴマダラヒトリ	○		
ヒメモンシロドクガ	○		
マイマイガ	○		
アゲハ類	○		
ナミアゲハ	○		
クワアゲハ	○		
シロオビアゲハ	○		
モンキアゲハ	○		
クビアスカシバ	○		
コスカシバ	○		
ヨモギエダシャク	○		
ヒメボクトウ	○		
クワゴマダラヒトリ	○		

目	害虫名	活性	作物群
チョウ目	チャノホソガ	○	茶
	チャハマキ	○	
	チャノコカクモンハマキ	○	
	ヨモギエダシャク	○	
	コブノメイガ	○	
	フタオビコヤガ	○	
ハエ目	ニカメイチュウ	○	大豆
	ウコンノメイガ	○	
	マメシンクイガ	○	
ハエ目	トマトハモグリバエ	○	野菜
	マメハモグリバエ	○	
	ナモグリバエ	○	
	ネギハモグリバエ	○	
	タネバエ	○	
	タマネギバエ	○	
	オウトウショウジョウバエ	○	
	ミカンバエ	○	
	イネヒメハモグリバエ	○	
	キスジノミハムシ	○	
ダイコンサルハムシ	○		
アリモドキソウムシ	○		
イモソウムシ	○		
ドウガネブイブイ	○		
ヨツモンカメノコハムシ	○		
ワサビリリロサルゾウムシ	○		
トビイロヒョウタンゾウムシ	○		
ケシクスイ類	○		
ヒメヒラタケシクスイ	○		
コウチュウ目	コアオハナムグリ	○	果樹
ゴマダラカミキリ	○		
アオドウガネ	○		
ドウガネブイブイ	○		
マメコガネ	○		
ミカンガタマムシ	○		
モモチョッキリソウムシ	○		
マダラカサハラハムシ	○		
イネミズソウムシ	○		
イネドロオイムシ	○		

目	害虫名	活性	作物群
カメムシ目	ワタアブラムシ	○	野菜
	モモアカアブラムシ	○	
	ダイコンアブラムシ	○	
	ニセダイコンアブラムシ	○	
	タイワンヒゲナガアブラムシ	○	
	チューリップヒゲナガアブラムシ	○	
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	○	
	ダイズアブラムシ	○	
	マメアブラムシ	○	
	イチゴケナガアブラムシ	○	
	ニンジンアブラムシ	○	
	ムギクビシアブラムシ	○	
	ユキヤナギアブラムシ	○	
	キクヒメヒゲナガアブラムシ	○	
	ミカンクロナアブラムシ	○	
オンシツコナジラミ	○		
タバココナジラミ	○		
ヒメフタテンヨコバイ	○		
チャバネアオカメムシ	×		
ツヤアオカメムシ	×		
ミカンキジラミ	○		
フタテンヒメヨコバイ	○		
チャノミドリヒメヨコバイ	○		
チャトゲコナジラミ	○		
ツマグロヨコバイ	○		
トビイロウンカ	×		
ヒメトビウンカ	○		
セジロウンカ	×		
バッタ目	カネタタキ	○	果樹
	コバネイナゴ	○	
アザミウマ目	イナゴ類	○	野菜
	ネギアザミウマ	○	
	チャノキイロアザミウマ	○	
	ミナミキイロアザミウマ	○	
	ミカンキイロアザミウマ	○	
	ヒラズハナアザミウマ	○	
モトジロアザミウマ	○		
ワサビクダアザミウマ	○		
ダニ目	ホウレンソウケナガコナダニ	○	野菜
ハチ目	カブラハバチ	○	

[記号の説明]
○: 実用的な活性あり
○: 活性あり
×: 活性なし

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

有用昆虫に安全性が高く、IPMに適合しています。

これまでの試験では有用昆虫への影響はほとんど認められません。

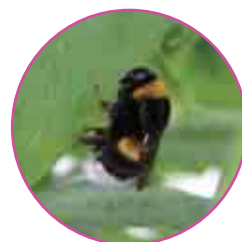
訪花昆虫に対する安全性	試験方法	常用濃度での影響の目安 (IOBC基準*)	試験実施機関(報告年)
セイヨウミツバチ (巣箱)	2000倍希釈液、160ℓ/10a散布、ビニールハウス	○ (1日)	(一社)日本植物防疫協会 茨城研究所 (2009年)
セイヨウオオマルハナバチ (巣箱)	10gai/ha散布 温室試験	○ (1日)	デュボン・スペイン(2011年)
クロマルハナバチ (巣箱)	2000倍希釈液、251ℓ/10a散布、ビニールハウス (トマト)	○ (1日)	(一社)日本植物防疫協会 高知試験場 (2016年)

天敵に対する安全性	試験方法	常用濃度での影響の目安 (IOBC基準*)	試験実施機関(報告年)
コレマンアブラバチ (成虫)	キャベツ試験:マンジャーセル法	◎ (影響なし)	(一社)日本植物防疫協会 茨城研究所 (2011年)
スワルスキーカブリダニ (若虫)	ピーマン試験:リーフディスク法	◎ (影響なし)	(一社)日本植物防疫協会 茨城研究所 (2011年)
ミヤコカブリダニ (成虫・卵)	インゲン試験:直接散布法(成虫)	◎ (影響なし)	クミアイ化学工業株式会社 生物科学研究所 (2015年)
チリカブリダニ (成虫・卵)	インゲン試験:直接散布法(成虫)	◎ (影響なし)	クミアイ化学工業株式会社 生物科学研究所 (2015年)
タバコカスミカメ (成虫・幼虫)	虫体浸漬法	◎ (影響なし)	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業 高知県農業技術センター (2014年)
クロヒョウタンカスミカメ (雄・雌成虫)	虫体浸漬法 / 葉片浸漬法	◎ (影響なし)	デュボン株式会社 成東AGFS (2015年)
タイリクヒメハナカメムシ (成虫・幼虫)	ナス試験:直接散布法(成虫・幼虫)	◎ (影響なし)	高知県農業技術センター (2006年)

*天敵等に対する影響は◎:死亡率0~25%、○:25~50%、△:50~75%、×:75~100%(野外・半野外試験)、◎:死亡率0~30%、○:30~80%、△:80~99%、×:99~100%(室内試験)
 訪花昆虫に対する影響は影響日数。常用濃度に幅がある場合は、濃度が高い方で試験を実施した。
 ●表中の安全日数、安全性はベネビア[®]OD単用散布における目安です。使用時の環境条件、散布状況、気候、混用薬剤によって変動がありますので注意してください。
 ●薬剤を散布する際はハチの巣箱を外に出してください。
 ●再導入は安全日数以上(散布から24時間以上)経ってから行ってください。



セイヨウミツバチ



マルハナバチ



スワルスキーカブリダニ



タバコカスミカメ

スワルスキーカブリダニ、セイヨウミツバチ写真提供:アリストライフサイエンス(株)

1剤でコナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類、チョウ目害虫、ハモグリバエに効果。

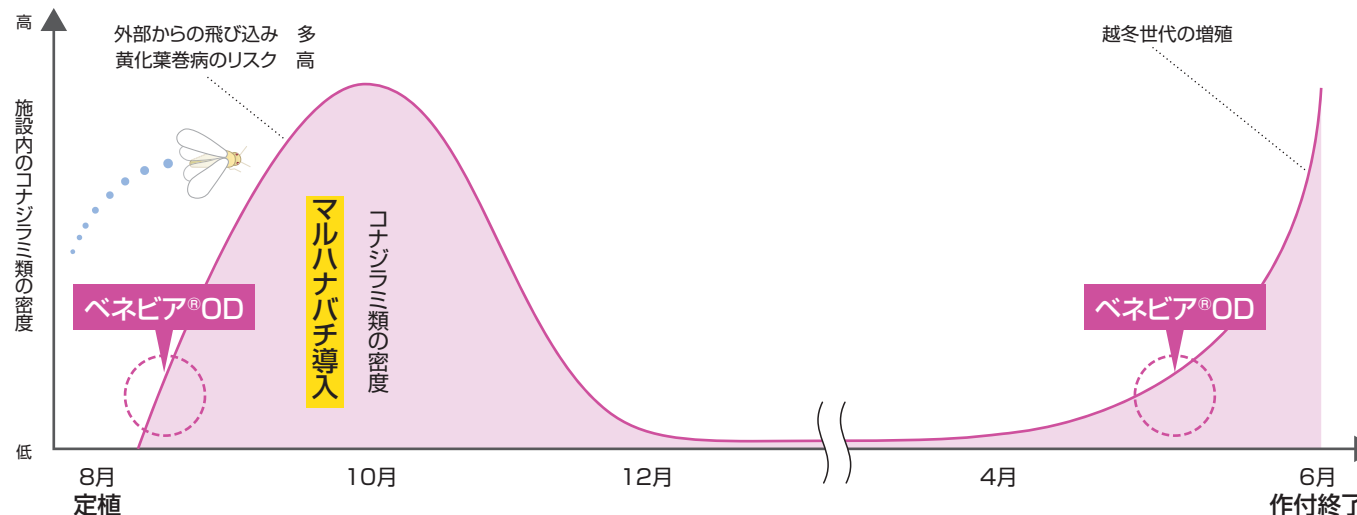
特長 1 天敵や訪花昆虫に安全性が高く、天敵導入中に散布でき、訪花昆虫は散布翌日の放飼が可能です。

特長 2 吸汁行動の速やかな阻害により、吸汁性害虫によるウイルス媒介抑制効果が期待できます。

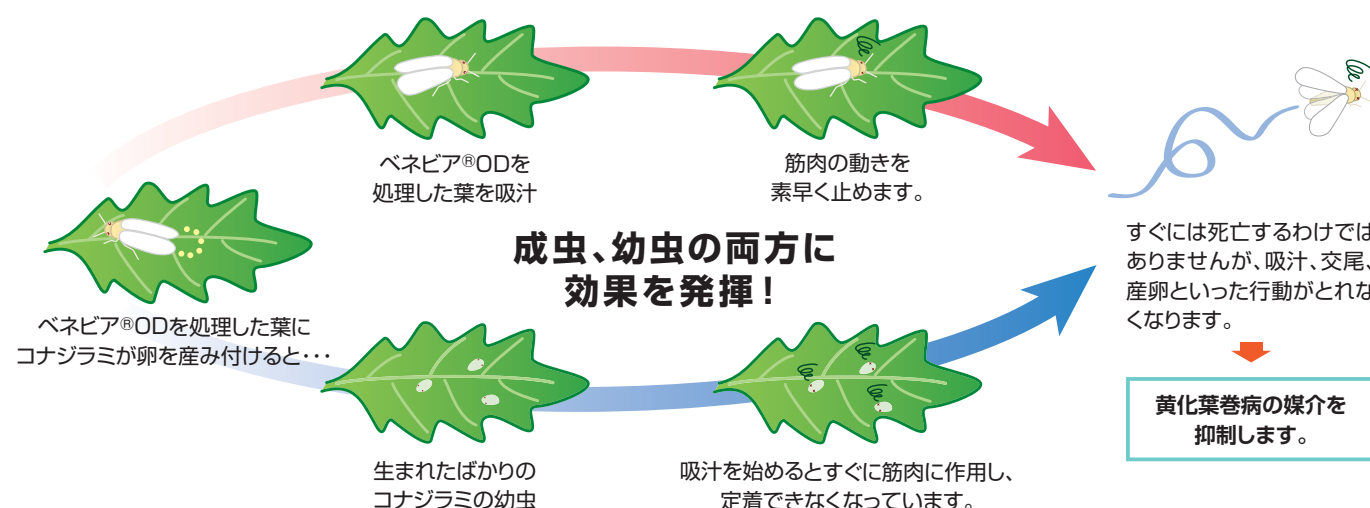


トマト黄化葉巻病対策ではタバココナジラミ、きゅうり黄化えそ病対策ではミナミキイロアザミウマ防除が重要です。ベネビア[®]ODで害虫密度の低い時期に予防的に散布し作物を保護します。

コナジラミの発生と効果的な散布タイミング(トマト越冬抑制型の場合)



成虫、幼虫の両方に効果を発揮



基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

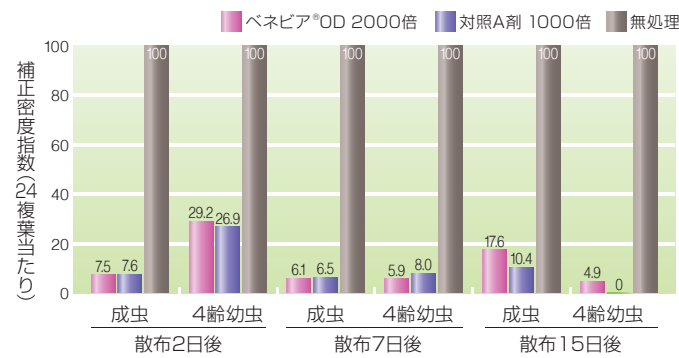
登録内容

混用事例

トマト コナジラミ類(タバココナジラミ バイオタイプQ)に対する効果



タバココナジラミ

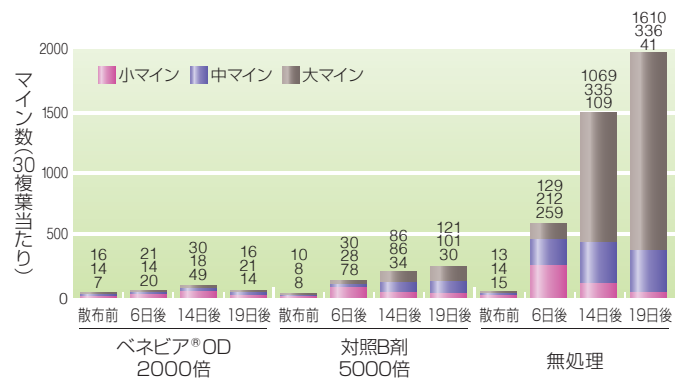


2009年 熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 【試験概要】◎品種:桃太郎8 ◎播種:2月2日 ◎区制:1区7.5㎡ 10株 2反復 ◎定植:4月6日 ◎発生程度:中→多発生(放虫) ◎処理日:5月15日 ◎処理方法:背負式動力噴霧器を用いて、300ℓ/10aを散布。◎調査方法:1区8株について、各株の上、中、下位から1複葉(3複葉/株)を選び、寄生する成虫数を計数。◎考察:本剤の防除効果は対照薬剤と比較し同等であり、無処理に対して高く、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

トマト ハモグリバエ類(トマトハモグリバエ)に対する効果



ハモグリバエ

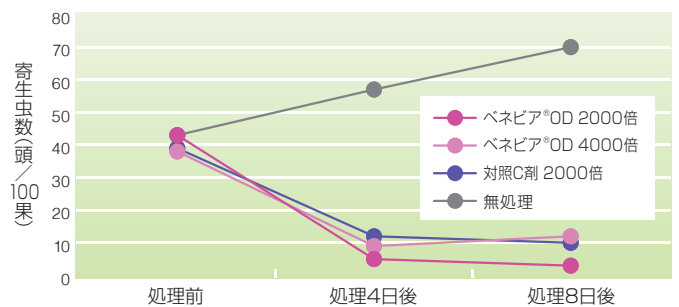


2009年 (一社)日本植物防疫協会研究所
 【試験概要】◎品種:桃太郎T90 ◎播種:2月 ◎区制:1区6.3㎡ 14株 3連制 ◎定植:4月23日 ◎発生程度:中→多発生(放虫) ◎処理日:6月11日 ◎処理方法:供試薬剤を所定の希釈倍率で希釈し、265ℓ/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式全自動噴霧器を用いて散布。◎調査方法:各区中央付近の10株について、株当たり1複葉にマークし、マーク葉およびその上位2複葉についてメイン数を程度別(小メイン:せん孔が3cm未満、中メイン:せん孔が3cm以上蛹化脱出前、大メイン:蛹化脱出後)に調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較し、優る高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

トマト オオタバコガに対する効果



オオタバコガ

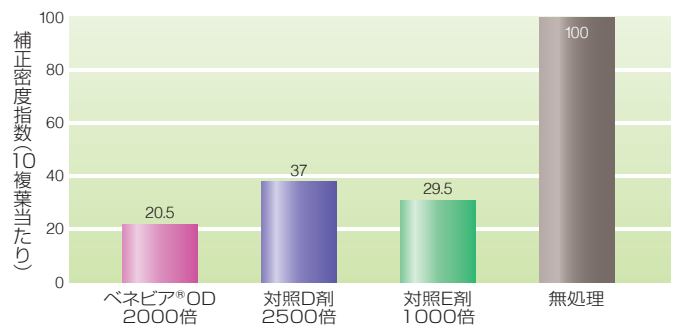


2011年 兵庫県植物防疫協会
 【試験概要】◎品種:桃太郎ファイト ◎区制:1区2.7㎡ 14株、3連制 ◎処理日:7月25日 ◎処理方法:肩掛け式小型噴霧器で180ℓ/10a散布した。◎調査日:7月25日、29日、8月2日 ◎調査方法:各区4~6段果計100果について寄生虫数を齢別に調査した。◎考察:対照薬剤に比較し防除効果は優っており、無処理に比べて効果は高かった。本剤のオオタバコガに対する2000倍の処理は実用性が高いものと考えられる。薬害は認められなかった。

トマト ミカンキイロアザミウマに対する効果



ミカンキイロアザミウマ

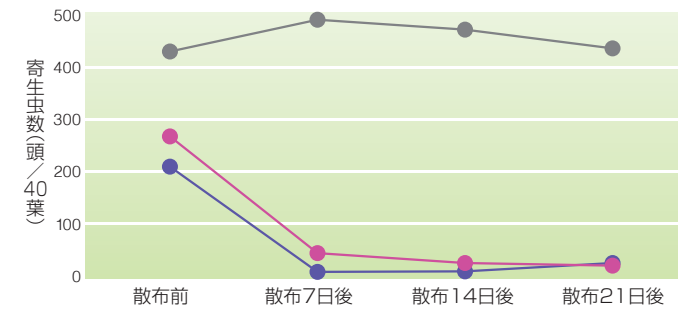


2018年 (一社)日本植物防疫協会 茨城研究所
 【試験概要】◎品種:桃太郎キフト ◎区制:1区7.2㎡ 16株 3連制 ◎処理日:7月23日 ◎処理方法:背負式バッテリー噴霧器を用いて、23ℓ/10a量で葉の表裏に十分かかるよう散布した。◎調査日:7月23日、26日、31日、8月7日 ◎調査方法:各区中央付近の10株について中位~下位の複葉を株当たり1複葉(計10複葉)選び、生息する虫数を幼虫・成虫別に調査した。◎考察:本剤は、対照薬剤と比較して優り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

きゅうり ミナミキイロアザミウマに対する効果



ミナミキイロアザミウマ

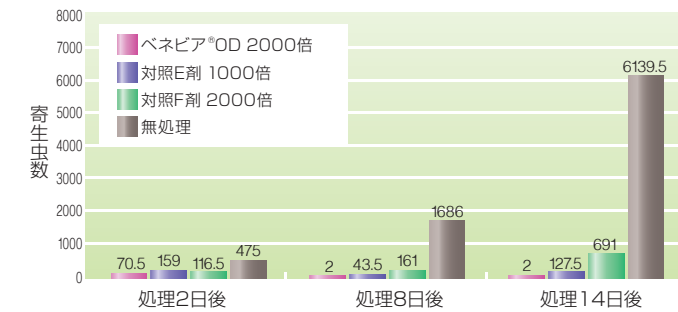


2015年 埼玉農業技術研究センター
 【試験概要】◎品種:クラージュ ◎区制:1区9.2㎡ 11株 3連制 ◎処理日:6月12日 ◎処理方法:362ℓ/10aの割合で、葉の表裏が十分濡れるよう背負式バッテリー噴霧器を用いて散布した。◎調査日:6月11日、19日、26日、7月3日 ◎調査方法:各区10株について、株当たり上位2葉および中位2葉(計40葉)に生息する虫数を幼虫・成虫別に調査した。◎考察:本剤は、対照薬剤とほぼ同等の効果を示し、無処理区と比較しても高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

きゅうり ワタアブラムシに対する効果



ワタアブラムシ

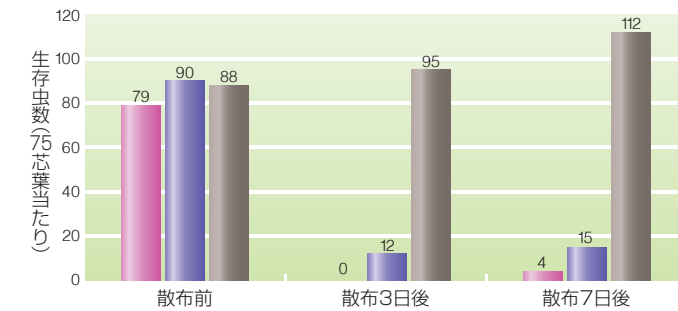


2014年 宮崎県総合農業試験場
 【試験概要】◎品種:エクセレント節成2号 ◎区制:1区2.6㎡ 4株 2反復 ◎処理方法:6月19日、9~10葉期にネオニコチノイド抵抗性ワタアブラムシを株当たり約20~30頭接種。6日後に肩掛け噴霧器を用いて十分散布。◎調査方法:散布2日後、8日後、14日後に各区4株2反復について中位2葉に寄生する有翅、無翅の虫数を調査。◎考察:本剤は、処理14日後まで極めて低密度に発生を抑えた。ネオニコチノイド抵抗性ワタアブラムシに対して高い防除効果を示し、初発時期から中発生時期まで広い範囲の防除薬剤の一つとして普及性が高いと考えられる。薬害は認められなかった。

きゅうり ウリノメイガに対する効果



ウリノメイガ

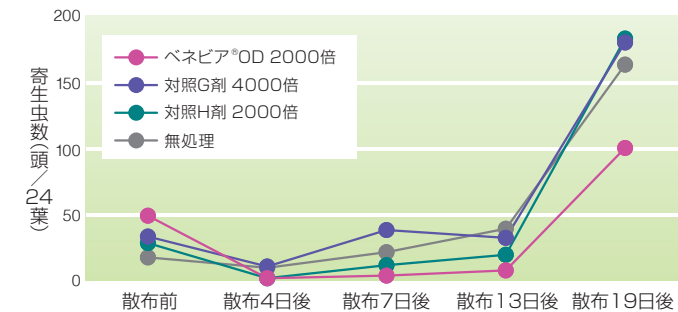


2010年 兵庫県植物防疫協会
 【試験概要】◎品種:シャキット ◎定植:7月24日 ◎区制:1区6.6㎡ 10株 3連制 ◎処理日:8月25日 ◎発生程度:多発生 ◎処理方法:所定濃度液を150ℓ/10aの割合で、肩掛け式手動噴霧器を用いて散布。◎調査方法:5芯葉に寄生するウリノメイガを齢別に調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較していずれの時期の防除効果も優っており、無処理に比べても効果は高く、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

ピーマン ミカンキイロアザミウマに対する効果



ミカンキイロアザミウマ

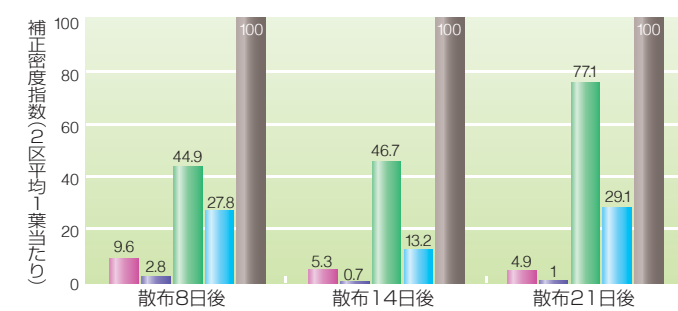


2011年 宮崎県総合農業試験場
 【試験概要】◎品種:京ゆたか ◎区制:1区5.1㎡ 8株 2反復 ◎処理日:5月26日 ◎処理方法:電動式噴霧器を用いて200ℓ/10a散布した。◎調査日:5月26日、30日、6月2日、8日、14日 ◎調査方法:各区8株について、上位4葉に寄生する成幼虫数を調査した。◎考察:本剤2000倍は、対照薬剤と比較して優れた効果が認められた。また、無処理区と比較して効果が認められ、実用性は高いと考えられた。薬害は認められなかった。

ピーマン タバココナジラミに対する効果



タバココナジラミ



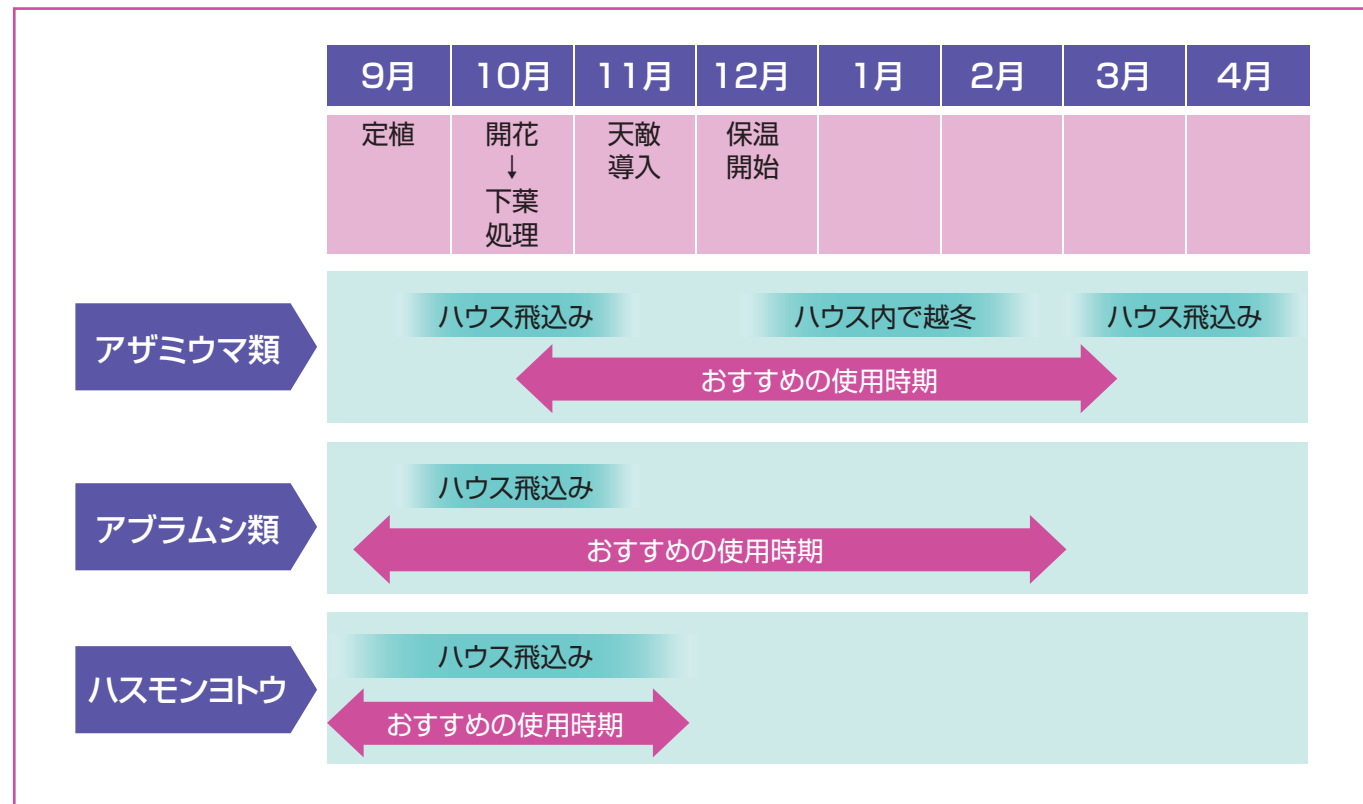
2009年 茨城県
 【試験概要】◎品種:みおぎ ◎区制:1区12.4~14.6㎡ (5.4×2.3m~2.7m) 15~18株 2連制 ◎処理日:7月27日 ◎処理方法:所定濃度の薬液を、背負式電動噴霧器を用いて葉裏までよくかかる程度に十分量を散布した。◎調査日:処理前、8日後、14日後、21日後 ◎調査方法:各区とも、区の間を除く株について、中位葉から任意に25枚を採集し、葉裏に寄生する幼虫の個体数を齢別に調査した。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して防除効果が優り、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

天敵・訪花昆虫を活かしながら、アザミウマ類、アブラムシ類などの重要害虫を防除します。

IPM(総合的病害虫・雑草管理)に適した使い方ができます。

いちごでの使用タイミング

温度の上昇とともに増加するアザミウマなどの害虫を減らすため、低温期からベネビア®ODで密度を抑えておくことがポイントです。春はハウス外からの飛び込みも増え、アザミウマなどが多発します。多発すると散布ムラなども増え薬剤防除が困難となりますので、発生初期の防除で害虫を低密度に保つことが重要です。

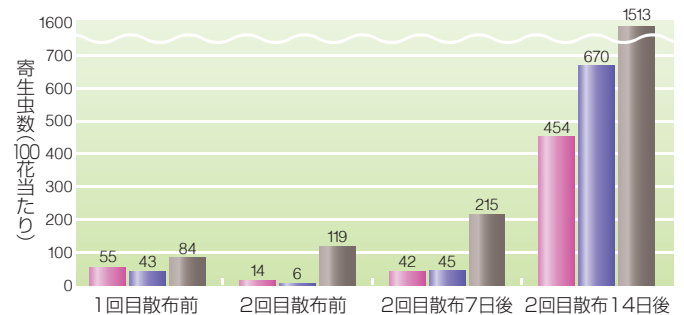


- 特長 1** 天敵導入に安全性が高く、中にも散布可能です。
- 特長 2** ミツバチへの影響日数は1日で、翌日導入可能です。
- 特長 3** 食害を速やかに停止します。
- 特長 4** 優れた残効性を発揮します。

いちご アザミウマ類(ヒラスハナアザミウマ)に対する効果



ヒラスハナアザミウマ

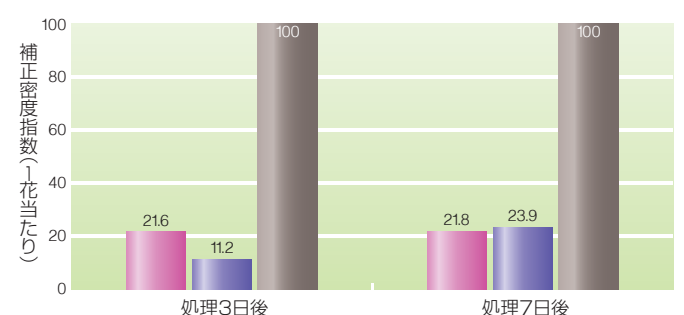


2017年 (株)アグリクリニック研究所(社内試験)
【試験概要】◎品種:とちおとめ ◎作物のステージ:収穫末期(開花期) ◎処理日:5月11日、5月18日 ◎調査日:5月25日(2回目散布7日後) 6月1日(2回目散布14日後) ◎調査方法:各区100花に寄生したヒラスハナアザミウマ成幼虫の寄生数を調査した。◎考察:本剤2000倍液の150ℓ/10aの2回散布は、対照B剤5000倍液散布に比べて2回目散布7日後及び14日後に高い防除効果が認められた。被害は認められなかった。

いちご アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ)に対する効果



ミカンキイロアザミウマ

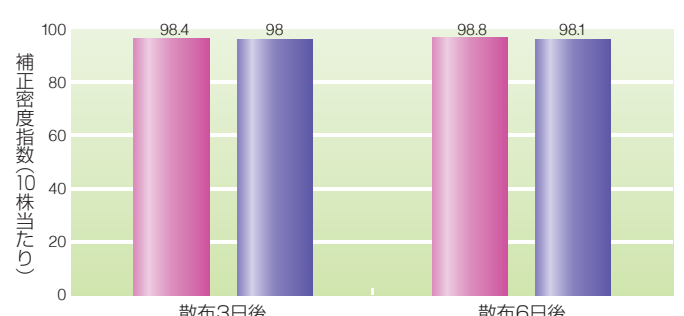


2009年 (一社)和歌山県植物防疫協会
【試験概要】◎品種:さちのか ◎区制:1区 4.8㎡ 32株3連制 ◎発生程度:中発生(放虫) ◎定植:9月9日 ◎処理日:4月10日 ◎処理方法:所定濃度の薬液を背負式電動噴霧器で300ℓ/10a散布。◎調査方法:各区10~33花について、白色アクリル板上で花を10回程度叩いて落下した成虫・幼虫を計数。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して効果がほぼ同等で、無処理と比較して効果があり、実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

いちご アブラムシ(ワタアブラムシ)類に対する効果



ワタアブラムシ

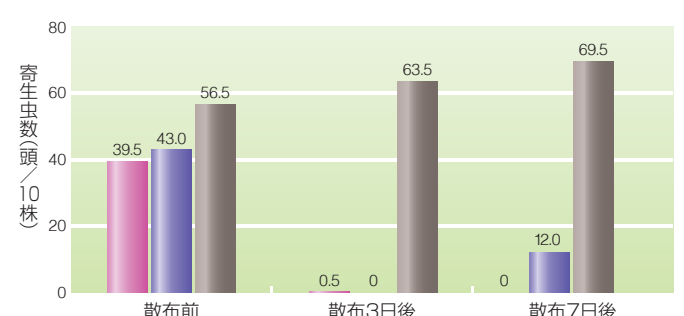


2010年 兵庫県植物防疫協会
【試験概要】◎品種:宝交早生 ◎区制:1区 5.0㎡ 12株3連制 ◎発生程度:多発 ◎定植:11月27日 ◎処理日:6月3日 ◎処理方法:130ℓ/10aの割合で、肩掛け式手動噴霧器を使用し散布。◎調査方法:各区中央部の5株について各株の中位葉3葉に寄生するアブラムシ数(除有翅)を調査。◎考察:本剤は、対照薬剤に比較していずれの時期の防除効果もほぼ同等で、無処理に比べても効果は高かった。実用性は高いものと考えられる。被害は認められなかった。

いちご ハスモンヨトウに対する効果



ハスモンヨトウ



2009年 兵庫県植物防疫協会
【試験概要】◎品種:宝交早生 ◎区制:1区 5.2㎡ 60株2連制 ◎発生程度:多発生(自然発生+放虫) ◎仮植:9月14日 ◎処理日:10月30日 ◎処理方法:肩掛け式小型噴霧器を用いて、105ℓ/10aの割合で散布。◎調査方法:各区中央部の接種株を中心とした10株について寄生虫数を齢別に調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して防除効果は優れており、無処理に比べても効果は高かった。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。



基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

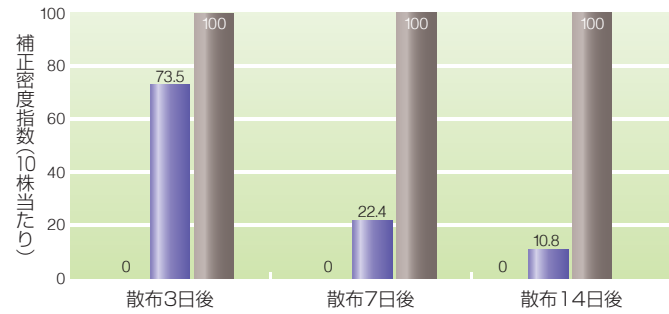
混用事例

幅広い害虫種に、齢期に関わらず効果を発揮します。

キャベツ コナガに対する効果



コナガ

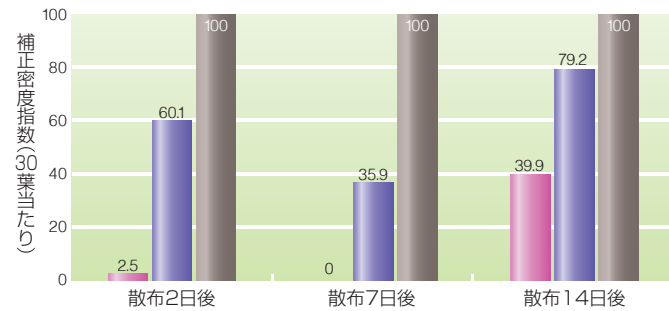


2009年 (一社)日本植物防疫協会研究所
 【試験概要】◎品種:金系201号 ◎区制:1区 6.4㎡ 16株 3連制 ◎発生程度:中→多発生 ◎播種:4月21日 ◎定植:5月14日 ◎処理日:6月9日 ◎処理方法:供試薬剤を所定の希釈倍数で希釈し、200ℓ/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式全自動噴霧器を用いて散布。◎調査方法:各区中央付近の10株に生息する虫数を種別・发育ステージ別に調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較し、優る高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

キャベツ アザミウマ類(ネギアザミウマ)に対する効果



ネギアザミウマ

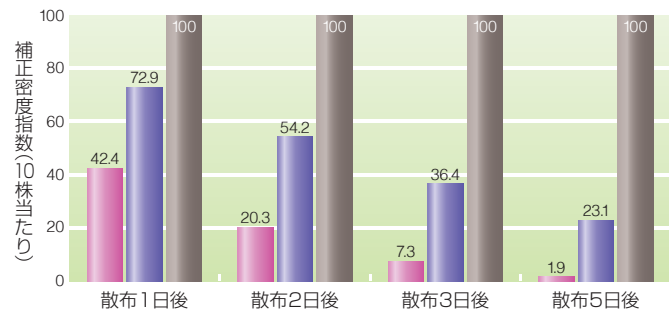


2009年 (一社)日本植物防疫協会研究所 高知試験場
 【試験概要】◎品種:金系201号 ◎区制:1区 5.4㎡ 16株 3反復 ◎発生程度:多発生 ◎播種:3月15日 ◎定植:4月26日 ◎処理日:5月12日 ◎処理方法:肩掛け式動力噴霧器を用いて、葉の表裏が十分濡れるように散布。◎調査方法:各区10株の上位展開葉3葉に寄生する虫数を幼虫・成虫別に調査。◎考察:本剤散布は対照薬剤と比較して優り、無処理区と比較して高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

キャベツ ウワバ類(タマネギウワバ)に対する効果



タマネギウワバ

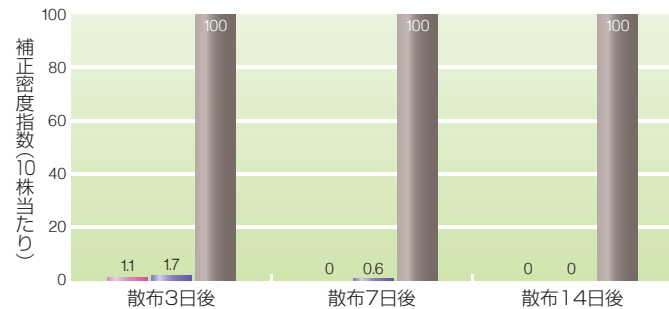


2012年 千葉大学園芸学部
 【試験概要】◎品種:金系201EX ◎区制:1区 6.0㎡ 10株 3連制 ◎発生程度:少発生(放虫) ◎播種:9月25日 ◎定植:10月17日 ◎処理日:11月7日 ◎処理方法:肩掛け式噴霧器を用いて、1区当たり500㎡散布。◎調査方法:各区に寄生していた幼虫の個体数を調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して効果が優り、無処理と比較して効果は高く、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

キャベツ ハスモンヨトウに対する効果



ハスモンヨトウ



2009年 香川県農業試験場 病害虫防除所
 【試験概要】◎品種:新藍 ◎区制:1区 4.9㎡ 20株 3連制 ◎発生程度:少発生(放虫) ◎定植:9月10日 ◎処理日:10月16日 ◎処理方法:210ℓ/10aを肩掛け式噴霧器で茎葉に全面散布。◎調査方法:各調査日に茎葉に寄生するハスモンヨトウ幼虫を若齢、中齢、老齢の別に各区10株について計数。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して、同等の効果が認められ、無処理と比較して高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

特長 1 食害を速やかに停止します。

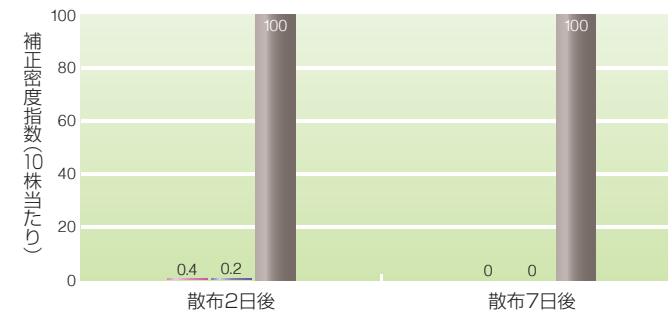
特長 2 優れた残効性を発揮します。

特長 3 収穫前日まで散布できます。

はくさい ヨトウムシに対する効果



ヨトウムシ

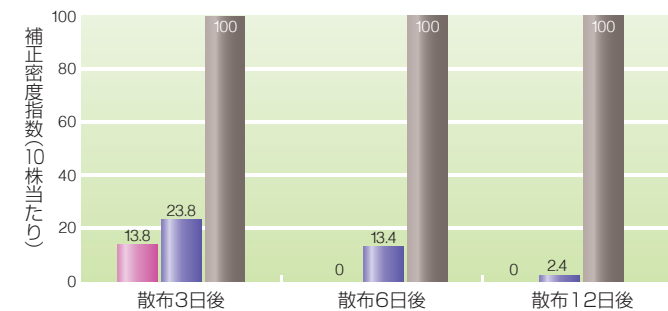


2010年 (一社)日本植物防疫協会研究所
 【試験概要】◎品種:耐病60日 ◎区制:1区 4.8㎡ 16株 3連制 ◎発生程度:多発生(放虫) ◎播種:5月7日 ◎定植:5月25日 ◎処理日:6月9日 ◎処理方法:供試薬剤は所定の希釈倍数で希釈し200ℓ/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式全自動噴霧器を用いて散布。◎調査方法:各区中央付近10株に生息する虫数を发育ステージ別に調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して、同等の高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

ブロッコリー アオムシに対する効果



アオムシ

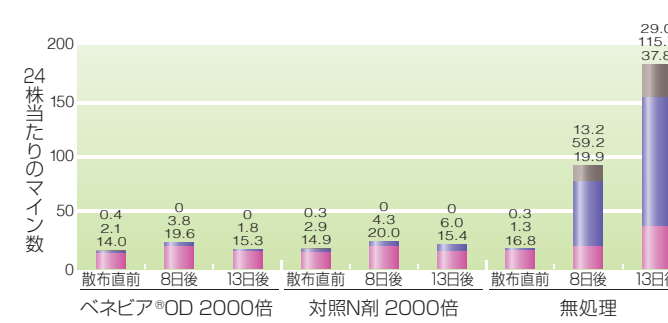


2010年 (一社)福井県植物防疫協会
 【試験概要】◎品種:ハイツSP ◎区制:1区 2.6㎡ 12株 3区制 ◎発生程度:少発生(放虫) ◎播種:3月15日 ◎定植:4月18日 ◎処理日:5月28日 ◎処理方法:所定濃度の薬液をバッテリー式噴霧器を用いて、200ℓ/10a相当量を茎葉散布。◎調査方法:各区10株について寄生虫数を調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して効果が優り、無処理に対し効果は高く、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

レタス ハモグリバエ類(ナモグリバエ)に対する効果



ナモグリバエ

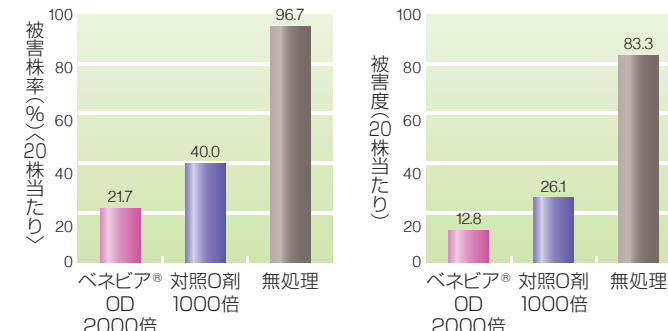


2009年 岩手県農業研究センター 東北農業研究所
 【試験概要】◎品種:スターレイ ◎区制:1区 10㎡ 60株 3連制 ◎発生程度:中発生 ◎播種:4月10日 ◎定植:5月16日 ◎処理日:5月16日 ◎発生程度:中発生 ◎処理日:5月16日 ◎処理方法:所定濃度の薬液を背負式手押噴霧器を用いて、150ℓ/10aの割合で散布。◎調査方法:区の中心24株の全葉について、マイン数を長さ別(小:5mm以下、中:5~10mm、大:10mm以上)に調査。◎考察:本剤は対照薬剤と同等の優れた効果が認められ、無処理区と比較しても優れた防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

レタス オオタバコガに対する効果



オオタバコガ



2009年 長野県野菜花き試験場 北信支場
 【試験概要】◎品種:ハトリオット ◎区制:1区 12㎡ 100株 3連制 ◎発生程度:中発生 ◎定植:8月31日 ◎処理日:9月22日、25日、10月2日 ◎処理方法:1回目は肩掛け式噴霧器を用いて、2、3回目は背負式動力噴霧器を用いて、250ℓ/10aの割合で散布。◎調査方法:各区20株について程度別被害状況を無(0)、小(外葉のみに食害痕1)、中(結球最外葉に食害痕2)、大(結球内部に食害痕3)の4段階に分けて調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して、優る高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

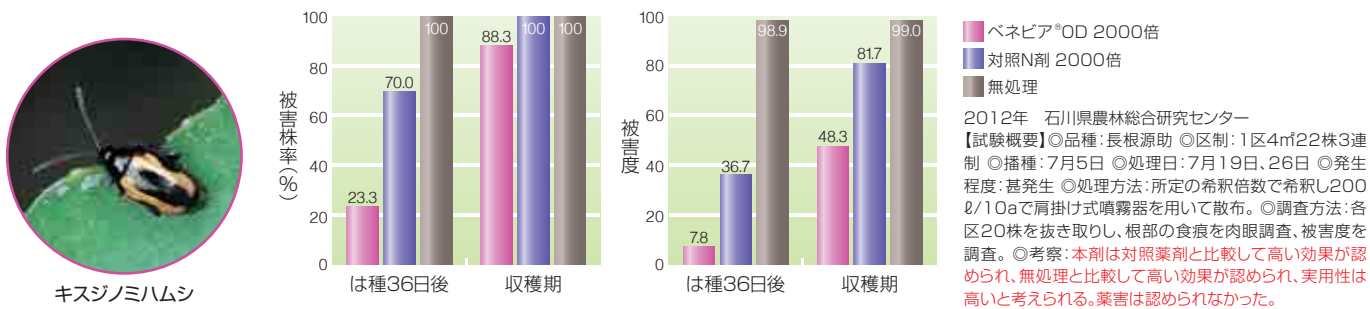
主要害虫キスジノミハムシを、チョウ目害虫・アブラムシ類と同時に防除。

重要害虫を1剤で同時防除します。

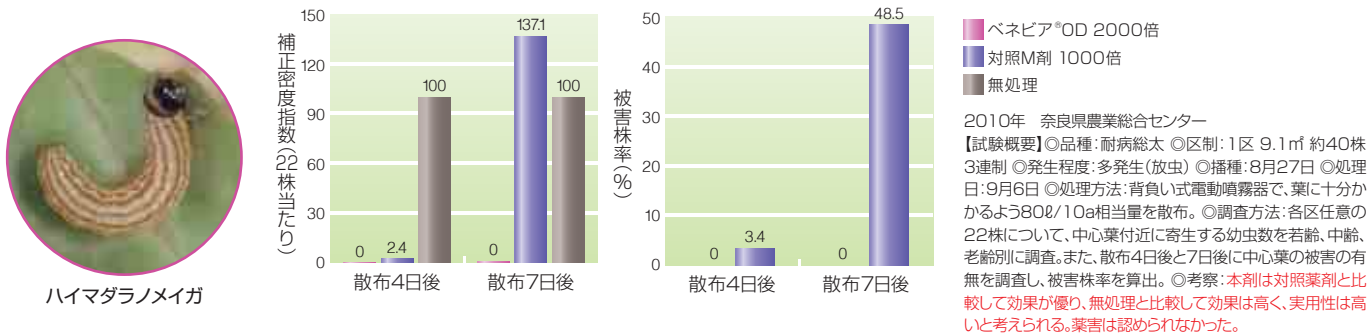
- 特長 1** 食害を速やかに停止します。
- 特長 2** 優れた残効性を発揮します。
- 特長 3** 浸透性を持ち、散布ムラを防ぎ耐雨性に優れます。

- 特長 1** 食害を速やかに停止します。
- 特長 2** 優れた残効性を発揮します。
- 特長 3** 薬剤が付着しにくいたまねぎでも、OD製剤は付着しやすく浸透性に優れます。

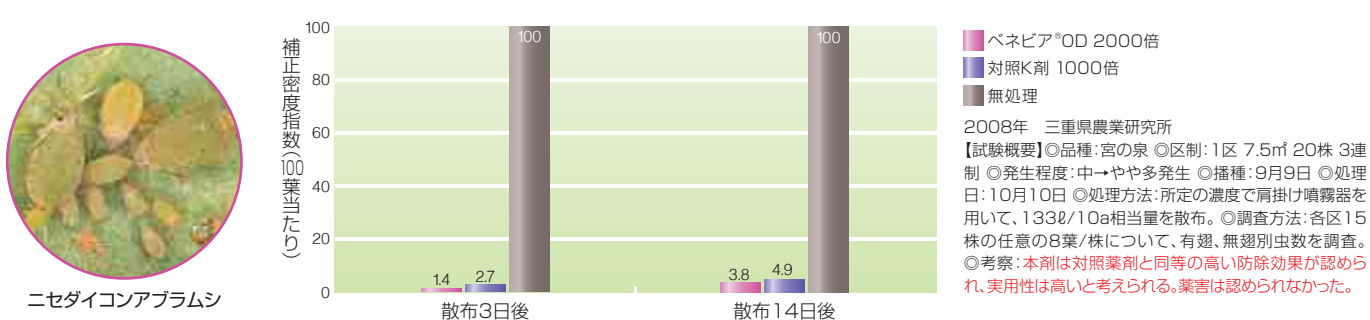
だいこん キスジノミハムシに対する効果



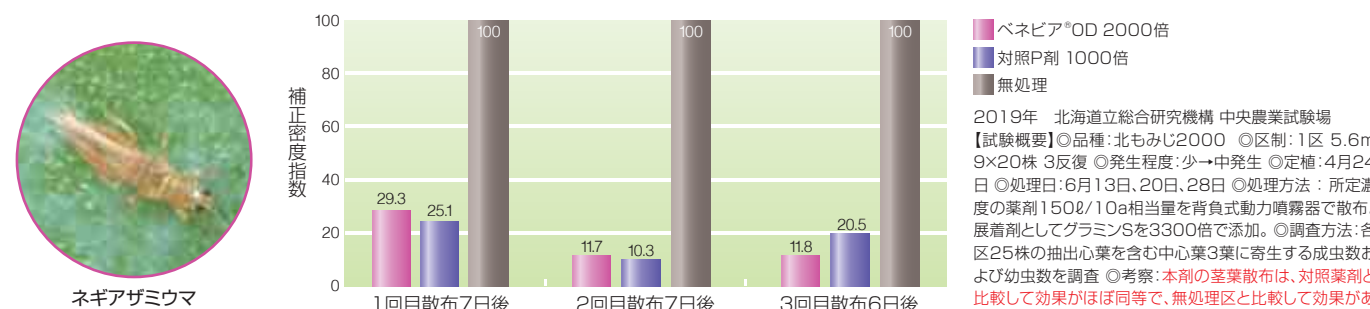
だいこん ハイマダラノメイガに対する効果



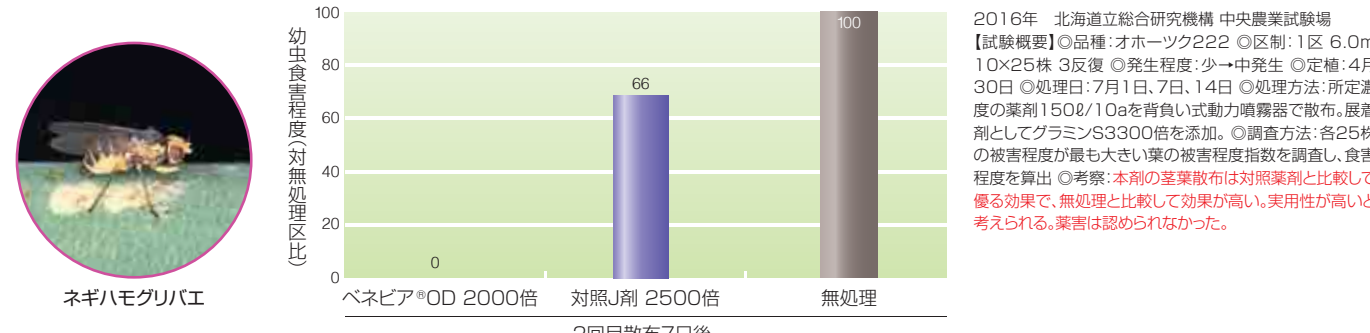
だいこん アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)に対する効果



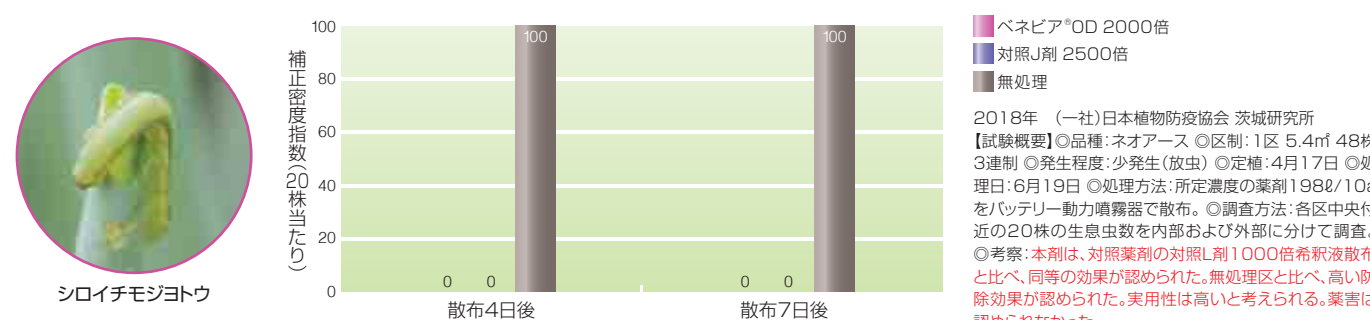
たまねぎ ネギアザミウマに対する効果



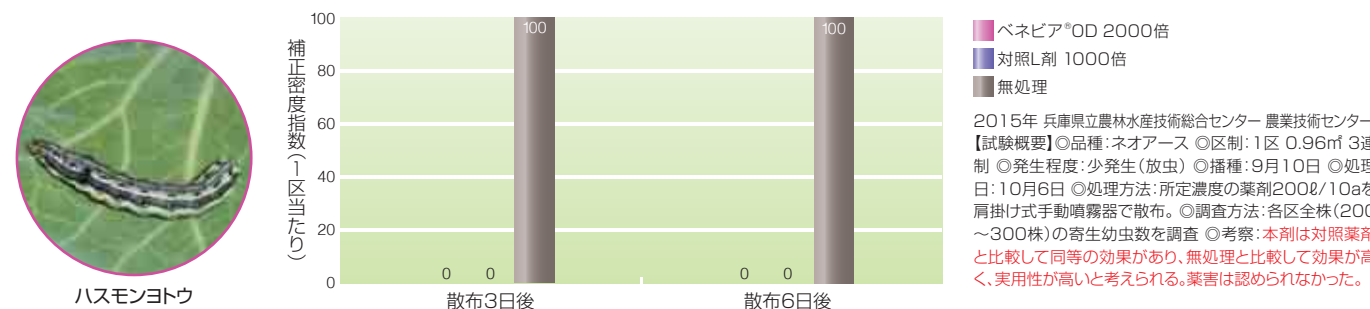
たまねぎ ネギハモグリバエに対する効果



たまねぎ シロイチモジトウに対する効果



たまねぎ ハスモンヨトウに対する効果



基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用例

基本情報

作物別情報

基本特性

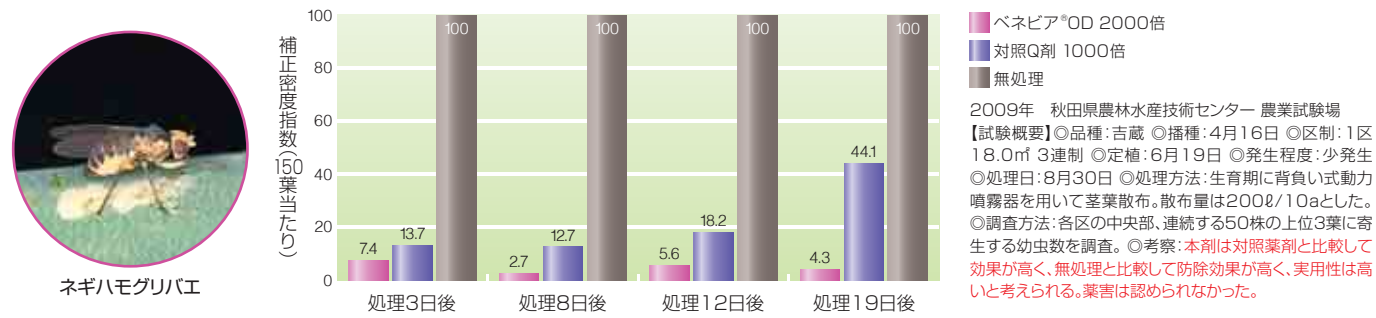
登録内容

混用例

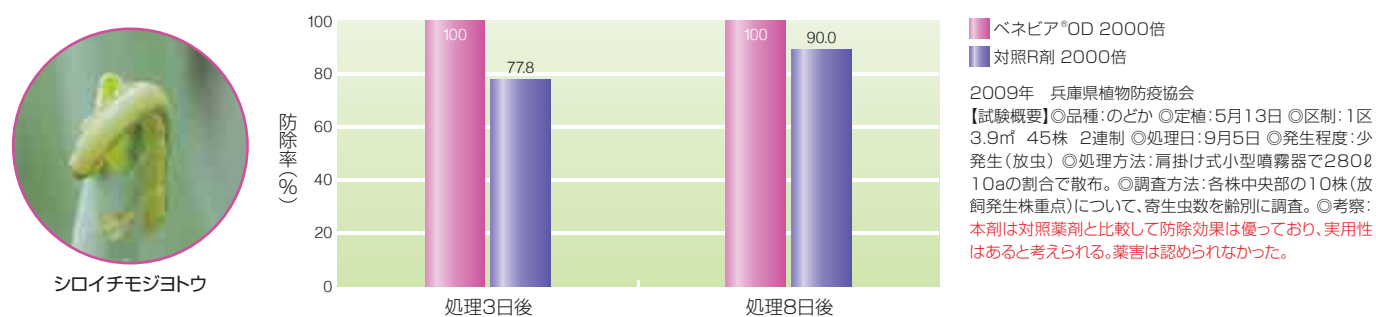
大きな被害を未然に防ぐために、発生初期の本剤の散布が有効です。

- 特長 1** ねぎの重要害虫を1剤で同時防除できます。
- 特長 2** 食害を速やかに停止します。
- 特長 3** 薬剤が付着しにくいねぎでも、OD製剤は付着しやすく浸透性に優れます。

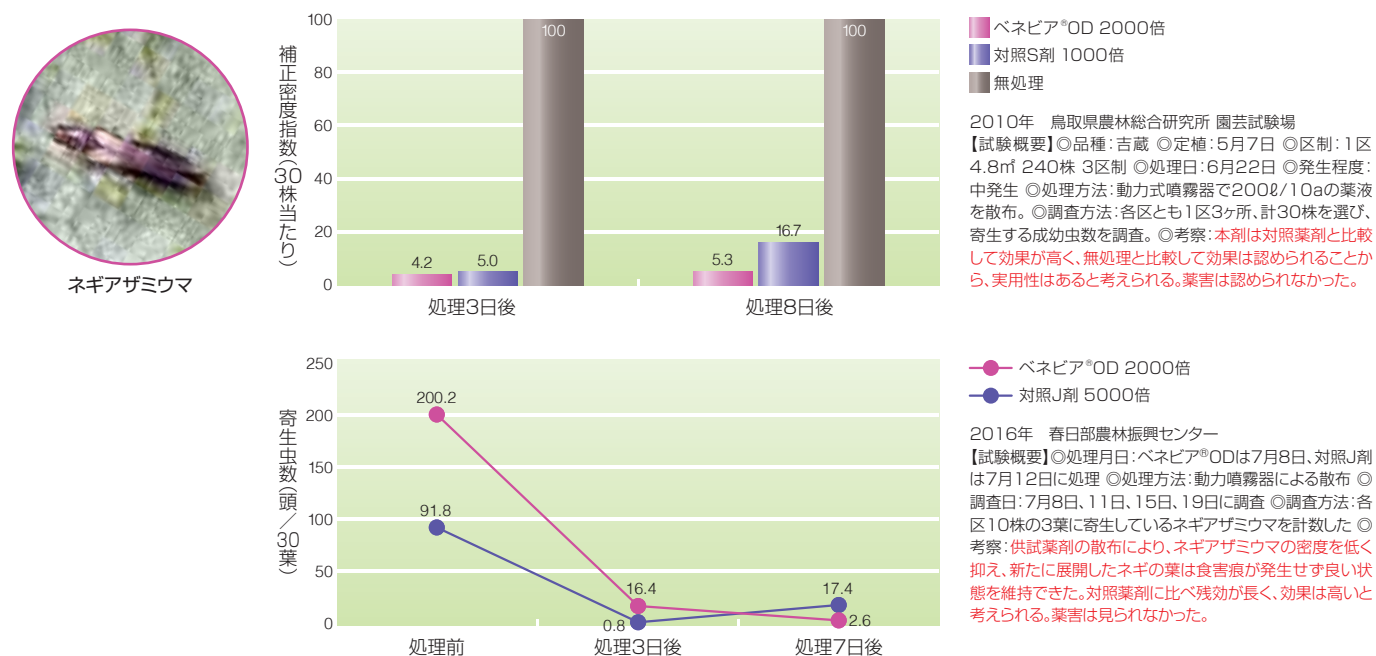
ねぎ ネギハモグリバエに対する効果



ねぎ シロイチモジヨトウに対する効果



ねぎ ネギアザミウマに対する効果



ベネビア®ODと殺菌剤と展着剤の3つの組合せでの混用をねぎで確認し、問題ありませんでした。

ベネビア®OD

+

殺菌剤

+

展着剤

殺菌剤	
アフェット(FL)	
ジマンダイセン(水)	
スミレックス(水)	
スターナ(水)	
トップジンM(水)	
バリダシン5(液)	
フルピカ(FL)	
リドミルゴールドMZ	
レーバス(FL)	
ロブラール(水)	

展着剤	
アプローチBI	
ササラ	
ニーズ	
ブレイクスルー	
ミックスパワー	

【記号の説明】

(水)	水和剤
(液)	液剤
(FL)	フロアブル剤

※本表は実施した試験をもとに作成しておりますが、品種、栽培条件、使用濃度、使用時期などにより結果が異なる場合があります。したがって、「被害がない」ということを保証するものではありません。あくまでも混用知見の一例として考えていただきますようお願いいたします。

New Topic! B系統ネギハモグリバエ近年発生中。

ネギハモグリバエ 学名: *Liriomyza chinensis* Kato

【生態と被害】
幼虫が葉中に潜り込んで食害し、後は白い筋状の孔を形成する。従来系統(A系統)では1葉当たり1~数匹程度で加害するのに対し、**B系統では1葉当たり10匹以上の幼虫が集中的に加害する傾向があり、被害が甚大となる。B系統に食害されると、ひどい場合は葉全体が枯れて白くなります。**

◎雌成虫(体長約2mm)

◎食害痕

ネギハモグリバエ食害痕: 令和元年度病害虫発生予察特殊法 第1号(長野県)より引用

薬剤	補正密度指数(マイン)数
ベネビア®OD 2000倍	24.9
対照T剤 1500倍	49.9
対照H剤 2000倍	51.8
対照J剤 2500倍	36.3
無処理	100

【試験概要】
2019年 長野県野菜花き試験場
試験場所: 野菜花き試験場内 露地圃場
品 種: 夏扇パワー(4月22日定植、連結パーパーポット2粒まき、施肥等の一般管理は慣行)
発生状況: 多発生(自然発生)
区制・面積: 1区 4㎡(1m×4m) 約80株/区 3反復
処理方法: 7月8日に規定の濃度に希釈した薬液を、背負型エンジン式動力噴霧器を用いて十分量(10a当たり200ℓ相当)を散布。展着剤としてマイリノー5,000倍を加用。
調査方法: 各区中央付近の連続する10株をマークし、処理直前(7月8日)は上位2葉、処理8日後(7月16日)及び処理14日後(7月22日)には上位3葉について、肉眼でネギハモグリバエのマインを計数。なお、マイン長がおおよそ30mm以内のものを小マイン、30mm以上のものを大マインとした。被害は遠観により評価。
※令和元年度 長野県農業情報から引用

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用例

16

17

速やかな効果発現により、食害を素早く停止します。

効果発現速度

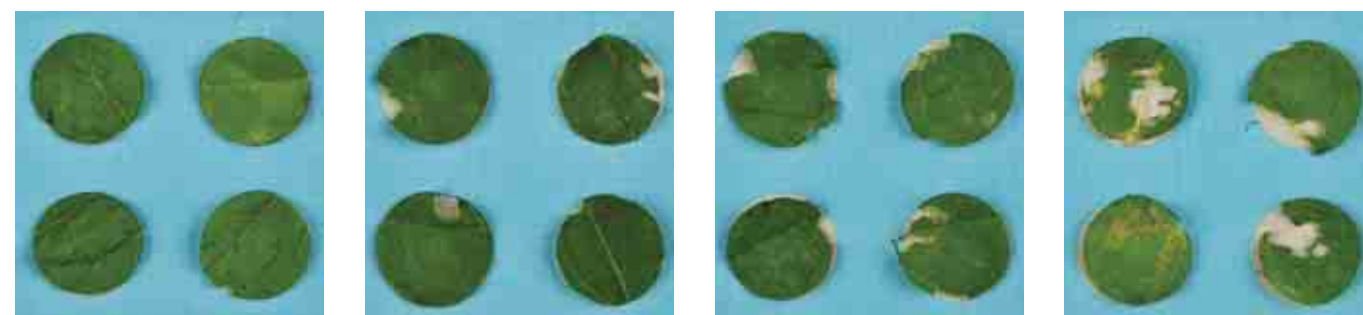
供試薬剤名	希釈倍数	濃度(ppm)	ノックダウン時間の比較 (KT ₅₀ 値*)
ベネビア [®] OD	2000倍	50	0.6
ベネビア [®] OD	4000倍	25	0.5
対照U剤	2000倍	50	2.5
対照C剤	1000倍	10	9.3

2009年 クミアイ化学工業(株)生物科学研究所
 【試験概要】
 処理日：1月14日
 供試虫：コナガ 2齢幼虫
 試験方法：キャベツリーフディスク浸漬法
 調査方法：25℃の恒温室に置き、所定時間ごとに死虫数および異常虫数を調査。
 考察：ベネビア[®]ODは速やかに殺虫活性を示しました。

*KT₅₀：昆虫の集団のうち半数の50%がノックダウンするのに必要な時間。

食害停止効果

素早く摂食活動を停止させるため食害を抑え作物を保護します。



ベネビア[®]OD 25ppm

対照U剤 147ppm

対照V剤 40ppm

対照W剤 468ppm



無処理

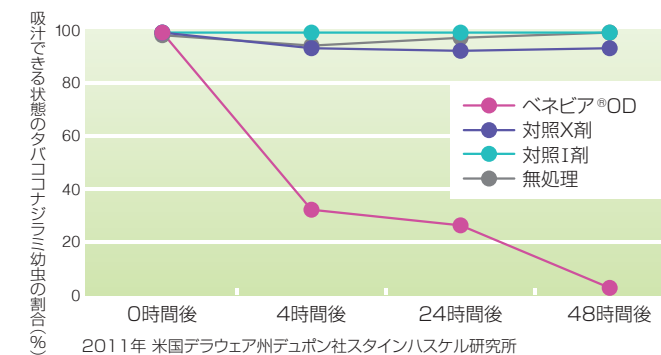
2009年 デュボン社スタインハスケル研究所
 供試虫：シロイチモジヨトウ幼虫
 試験方法：トマトリーフディスク浸漬法



吸汁行動の速やかな阻害①

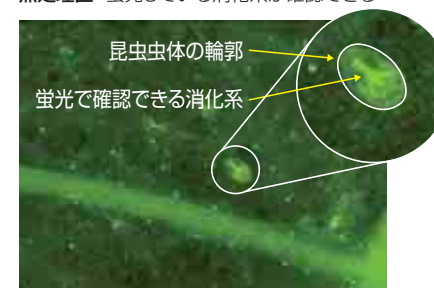
ベネビア[®]OD処理区では、害虫がすぐに死に至らない場合であっても吸汁ができなくなることが確認されました。本試験では、ベネビア[®]ODは対照薬剤に比べ、タバココナジラミ幼虫による吸汁を防ぐ効果が高いことが明らかとなりました。

※処理濃度は各薬剤のタバココナジラミに対するLC90に基づいて試験された。

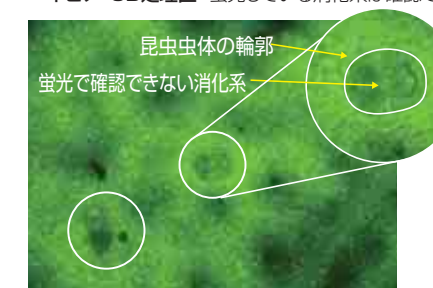


吸汁行動の速やかな阻害②

無処理区 蛍光している消化系が確認できる



ベネビア[®]OD処理区 蛍光している消化系は確認できない



このトマト葉を利用した試験にて、無処理区ではタバココナジラミの幼虫が蛍光剤を含む葉内物質を吸汁することが確認されましたが、ベネビア[®]OD処理区では幼虫の消化管に蛍光剤が確認されませんでした。このことからベネビア[®]OD処理により害虫の吸汁行動が阻害されていることがわかります。

2011年 米国デラウェア州デュボン社スタインハスケル研究所

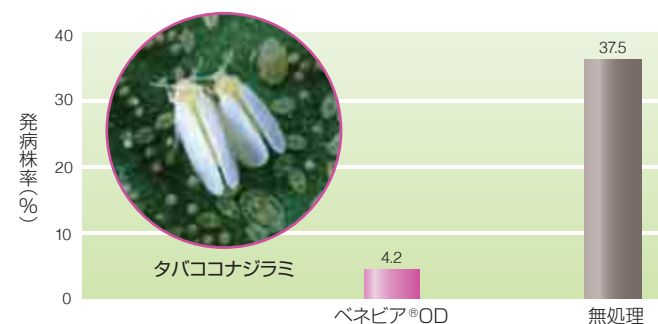
ベネビア[®]ODのウイルス媒介抑制効果について

ベネビア[®]ODは国内の試験事例において、トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)、メロン黄化えそウイルス(MYSV)の媒介抑制効果が認められています。また、海外の事例では、複数の野菜において数種のウイルス病の発病率を低下させた事例があります。ベネビア[®]ODの有効成分であるサイアジピル[®]自体にウイルス病に対する効果はありませんが、ウイルスを媒介する保毒虫の行動を阻害するその作用機作によってウイルスの媒介抑制を引き起こしているものと考えられます。サイアジピル[®]の作用機作がウイルス媒介抑制効果を発現する要因として次のものが考えられます。

- 殺虫効果による保毒虫密度の低下……………圃場内でのウイルス媒介機会の低減
- 筋収縮による吸汁摂食行動の抑制……………保毒虫の病原体の獲得、伝達を低減
- 筋収縮による飛翔・移動行動の抑制……………圃場内外の保毒虫の分散・拡大を低減
- 筋収縮による生殖行動の抑制……………保毒虫の累代増殖数を低減

各種ウイルス病対策にはベネビア[®]ODをはじめとする殺虫剤による保毒虫の密度を低下させるとともに、ウイルス抵抗性品種の導入、保毒虫の侵入阻止、健全苗の使用、圃場周辺の整備等の対策が必要です。

トマト黄化葉巻病の媒介抑制効果



2014年 熊本県農業研究センター内ガラスハウス
 【試験概要】◎品種：りんか409 ◎対象害虫：タバココナジラミ バイオタイプQ ◎発生量：多発生(罹病株を設置) ◎区制：1区6株(3複製/株) 3反復 ◎播種：2月27日 ◎定植：4月15日 ◎処理日：5月9日、5月16日、5月22日 計3回 ◎調査日：最終散布18日後

きゅうり黄化えそ病の媒介抑制効果



2016年 佐賀県農業試験研究センター
 【試験概要】◎品種：きゅうり(ときわ333) ◎区制：1区10株 ◎処理日：1回目 4月10日播種、4月24日薬剤散布、4月27日放飼2回目 4月30日播種、5月11日薬剤散布、5月18日放飼 ◎処理：苗にハンドスプレーを用いて、各供試薬剤を1回、展着剤を加用せず十分量散布した。◎調査日：1回目/5月20日、2回目/6月8日 ◎調査方法：発病株率(%)は、調査日2回の平均から算出した。

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

ベネビア®ODは幅広い害虫のステージに効果を示し、害虫の被害を長期間抑えます。
 孵化幼虫に高い効果を示す一方直接の殺卵効果はありません。

配偶行動阻害

成虫が薬剤を体内に取り込むと、交尾機会の損失や産卵行動異常により産卵数が減少します。

※散布の場合のみ



害虫(チョウ目の)各ステージへの影響

殺孵化幼虫活性

卵から出てきたばかりの幼虫が薬液がかかった卵の殻をかじることですぐに活動できなくなります。

殺虫効果(幼虫)

若齢から老齢まで齢期を問わず効果を示します。

殺虫効果(成虫)

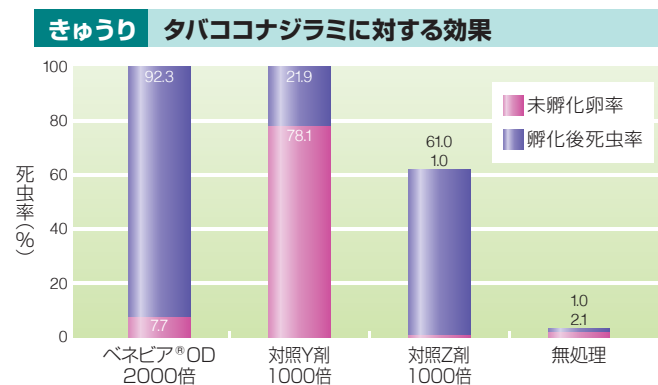
成虫に対する殺虫効果を示します。

卵への影響

種	ベネビア®ODの処理濃度 (ppm) ^{※1}	供試卵数	死亡率(%) (卵への処理のみに由来)	
			卵 ^{※2} (殺卵活性)	孵化幼虫 ^{※2} (殺孵化幼虫活性)
コナガ	100	76	14.7	100.0
	300	69	16.8	100.0
	0(水のみ)	54	8.0	1.9

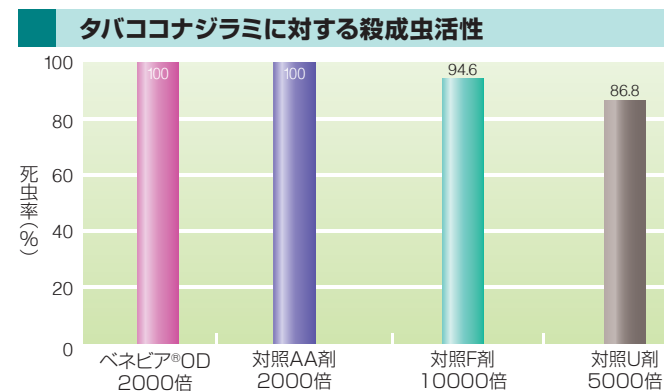
※1: 卵はパラフィン紙に産下させた。産卵から1-3日後の卵に薬剤を処理した。
 ※2: 調査は未孵化卵数と卵殻の損傷によって死亡した孵化幼虫数についておこなった。

殺孵化幼虫効果



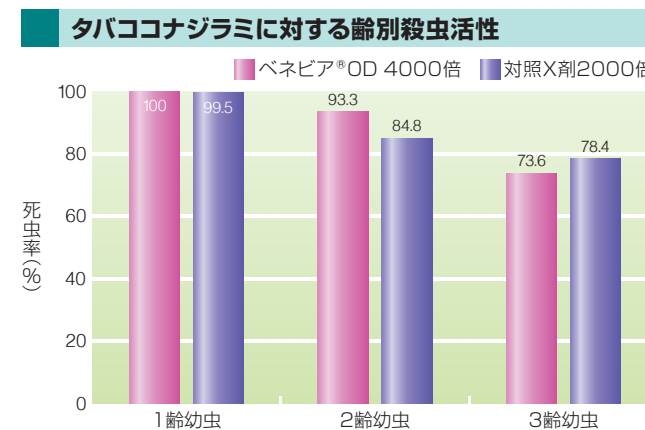
2009年 クミアイ化学工業(株)生物科学研究所
 【試験概要】◎品種:相模半白 ◎産卵日:10月7日 ◎処理日:10月9日 ◎処理方法:きゅうり幼苗にタバココナジラミ成虫を放飼し、24時間産卵させた。成虫を取り除き、産卵後2日目に、所定濃度の浸漬し、風乾。試験は16L8D、25℃で行った。◎調査方法:処理後12日目に、死亡率(死幼虫+未孵化卵)、未孵化卵率、孵化後死亡率を算出。未孵化卵数には卵殻に付着して致死した個体を含めた。

成虫への効果



2009年 クミアイ化学工業(株)生物科学研究所
 【試験概要】◎供試作物:インゲン(リーフディスク) ◎処理日:9月15日 ◎処理方法:リーフディスクに自動散布装置で薬液を散布。風乾した後、成虫10頭を雌雄の区別なく放し、蓋をして葉面に下に向けた。◎調査方法:処理後3日目に死亡率を算出。◎考察:ベネビア®ODはタバココナジラミの成虫に対して高い効果を示した。

幼虫への効果



2010年 クミアイ化学工業(株)生物科学研究所
 【試験概要】◎供試作物:きゅうり(相模半白) ◎処理日:1齢幼虫:8月17日、2齢幼虫:6月9日、3齢幼虫:6月9日 ◎試験方法:きゅうりリーフディスク浸漬法 ◎調査方法:処理後10日目に死亡率を算出。◎考察:ベネビア®ODは生育齢期が進んだ害虫に対しても安定した効果を示した。

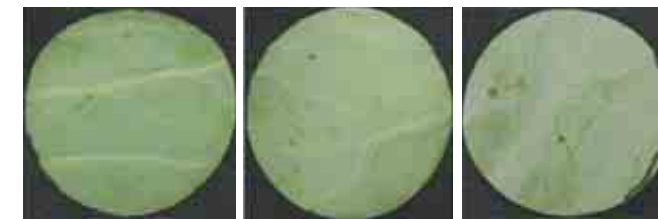
葉表から葉裏への浸達性

①コナガの例(キャベツ葉)

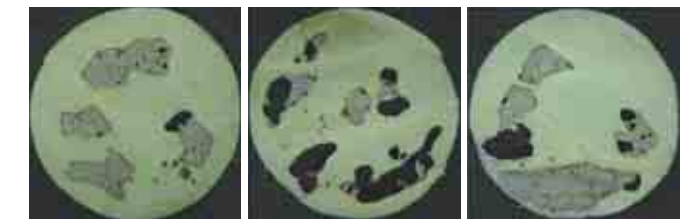
葉裏のコナガ幼虫に対して優れた効果を示します。
 葉裏の散布ムラがあっても浸達性により葉裏の害虫も防除できます。



■ベネビア®OD



■無処理

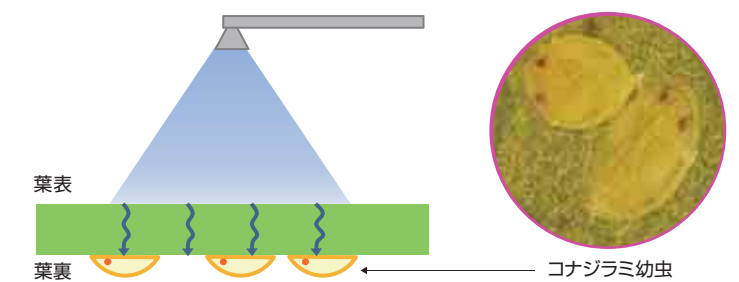
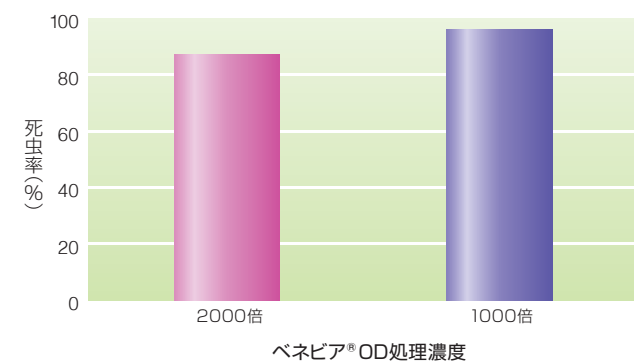


2008年 米国デラウェア州デューボン社スタインハスケル研究所

②コナジラミの例(トマト葉)

ベネビア®ODは優れた葉面浸透性が確認され、葉裏の害虫にも効果を示すことが分かりました。
 処理方法:葉の下面にコナジラミ幼虫が寄生した状態で、ベネビア®ODを葉の上面のみに所定濃度で処理しました。
 調査方法:葉の下面に寄生したコナジラミ幼虫の死亡率を調査しました。

葉裏のタバココナジラミ幼虫に対する効果



基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用例

基本情報

作物別情報

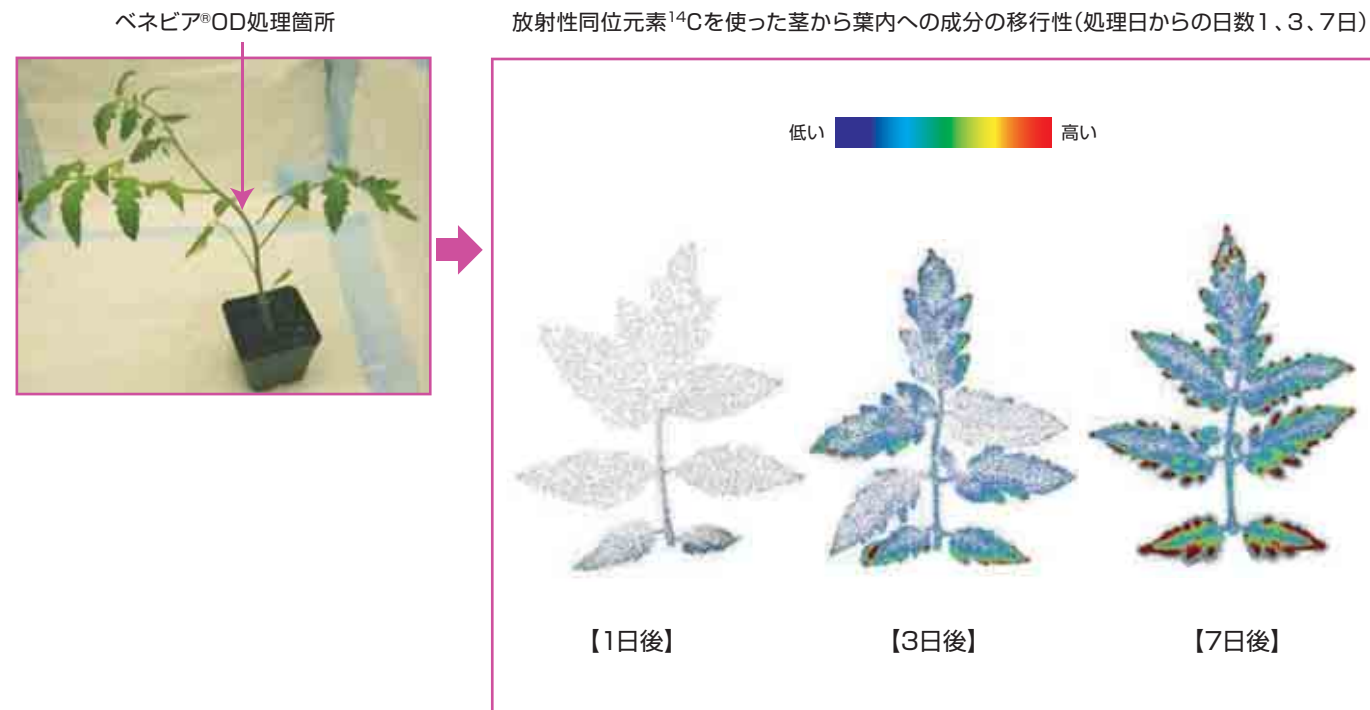
基本特性

登録内容

混用例

局所移行性

ベネビア[®]ODが茎もしくは葉柄の表面に処理されると、有効成分は葉内に浸透し、隣接する上位葉へと移行します。これにより、散布ムラを抑制することが可能となります。

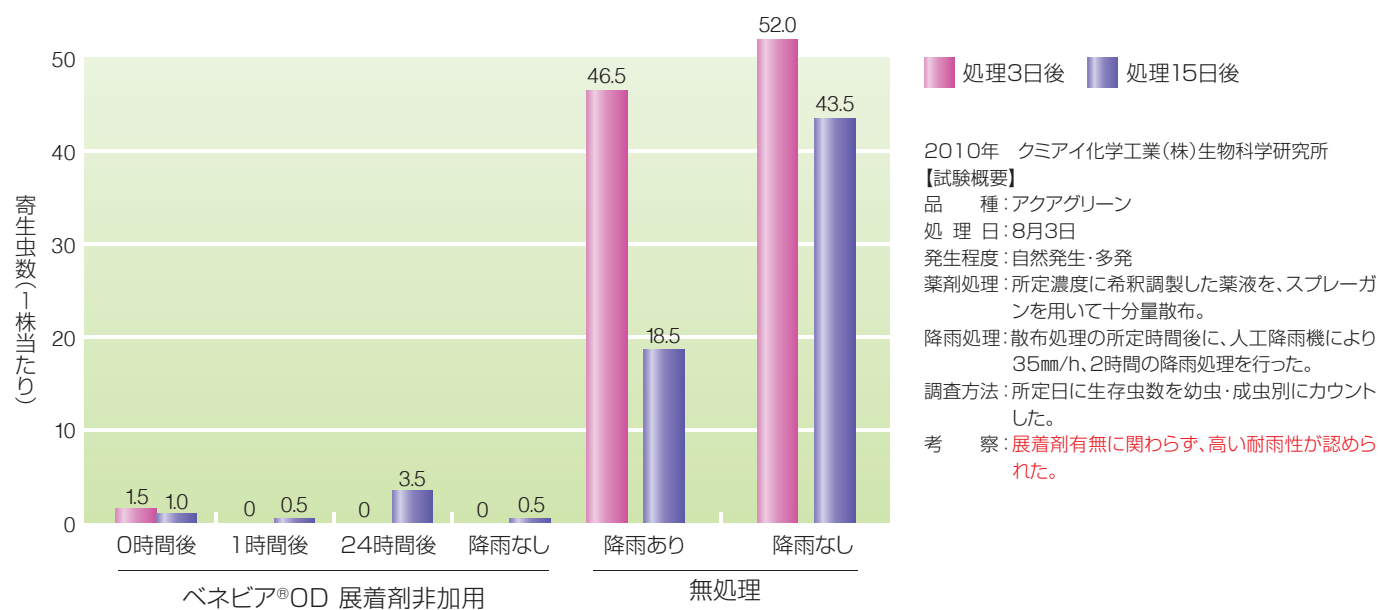


2011年 米国デラウェア州デュボン社スタインハスケル研究所

耐雨性

高い耐雨性により、安定した防除効果が期待できます。

ねぎ ネギアザミウマに対する効果



OD製剤とは

ベネビア[®]ODの「OD」は、油性懸濁性剤(Oil Dispersion)の略で、これは文字通り、農薬有効成分の固体微粉末を油性液体に懸濁させたものです。

比較の上で分かりやすいと思われるのは、乳剤とFL(フロアブル)製剤で、乳剤は農薬有効成分を油性液体に溶解させたもの、一方のFL製剤は農薬有効成分を水に懸濁させたものです。

OD製剤中の油性成分は、そのままでは水に溶けませんので、OD製剤には界面活性剤が加えられています。この油性成分と界面活性剤の組み合わせは「アジュバント」と呼ばれる機能性展着剤の一種で、アジュバントには作物上に散布された農薬成分の展着性、耐雨性のほか、浸透性を向上させる働きがあります。

つまり、OD製剤は展着剤の機能も同時に兼ね備えた製剤と言えます。

なお、本製剤は保管中に分離することがありますが振ればすぐに元に戻りますので問題ありません。

	製剤成分	農薬有効成分は製剤中に
乳剤	油性	溶解
FL製剤	水性	微粉末として懸濁
OD製剤	油性	微粉末として懸濁



ベネビア[®]OD 2000倍 単用散布(展着剤無し)のキャベツ葉への付着の様子

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用例

適用害虫と使用方法

2020年4月9日現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウバ類 オオタバコガ	2000~4000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は3回以内)	
	アザミウマ類 アブラムシ類	2000倍						
はくさい	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	2000~4000倍						
	アブラムシ類 キスジノミハムシ	2000倍						
レタス 非結球レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ヨトウムシ	2000~4000倍						
	ハモグリバエ類 アブラムシ類	2000倍						
だいこん	コナガ、アオムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ ダイコンサルハムシ	2000~4000倍						4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 散布は3回以内)
	アブラムシ類 ハモグリバエ類 キスジノミハムシ	2000倍						
	ヨトウムシ	4000倍						
	アオムシ ハスモンヨトウ コナガ	2000~4000倍						
ブロッコリー	アオムシ ハスモンヨトウ コナガ	2000~4000倍						
	アザミウマ類 アブラムシ類	2000倍						
トマト ミニトマト	オオタバコガ	2000~4000倍	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、 定植後の散布は3回以内)					
	ハモグリバエ類 コナジラミ類 アザミウマ類 アブラムシ類	2000倍						
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類 ウリノメイガ	2000倍						
ピーマン	オオタバコガ	2000~4000倍						
	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2000倍						
ししとう	オオタバコガ	2000~4000倍	4回以内 (灌水は1回以内 散布は3回以内)					
いちご	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2000倍						
アスパラガス	ハスモンヨトウ	2000~4000倍						
	アザミウマ類	4000倍						
オクラ	アブラムシ類	2000倍	3回以内					
				収穫開始3日前まで				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシンクイガ	2000~4000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類	2000倍					
だいず	ハスモンヨトウ マメシンクイガ	2000~4000倍					
	アブラムシ類	2000倍					
ねぎ	シロイチモジヨトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍					
	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍					
たまねぎ	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍					
	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍					
やまのいも	ナガイモコガ ハスモンヨトウ アブラムシ類	4000倍					
	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ アリモドキノムシ ヨツモンカメノコハムシ	4000倍					
かんしょ	ハスモンヨトウ アブラムシ類	2000倍					
	ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ	4000倍					
ばれいしょ	ハスモンヨトウ アブラムシ類	2000倍					
	ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ	4000倍					
さやいんげん かぼちゃ	ムギクビレアブラムシ	2000倍					
	アワノメイガ オオタバコガ	4000倍					
未成熟とうもろこし	アワノメイガ オオタバコガ	4000倍					
	アブラムシ類	2000倍					
にんじん	ヨトウムシ ハスモンヨトウ キアゲハ	4000倍					
	ヨトウムシ	4000倍					
たばこ	ヨトウムシ	4000倍	100~180ℓ/10a	収穫10日前まで	2回以内		2回以内

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないでください。
- トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意してください。
 - ①アゾキシストロピンを含む農薬との混用はしないでください。
 - ②アゾキシストロピンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください。
- はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当たっては事前にその適否を確認してください。

- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすようにしてください。

- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱に近づかないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

2020年6月30日現在

基本情報

作物別情報

基本特性

登録内容

混用事例

殺菌剤	キヤベツ	はくさい	プロコリ	レタ	トマ	きゆうり	ピーマン	いちご	かぼち	だいこん	やまのいも	ねづき	たまねぎ	だいす	未成熟とうもろこし	アスパラガス	にんじん
アグリマイシン100(水)	●	●	●														
アグレプト(液)	●	●															
アフエット(FL)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アミスター20(FL)	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アリエッティ(水)													●				
エコショット				●			●										
オゾンサイド80(水)	●			●													
オキシンドー80(水)	●			●													
オルフィン(FL)														●			
オンリーワン(FL)													●	●			
カーゼートPZ(水)					●	●											
カスミンボルドー(水)				●	●	●				●	●	●	●				
カセット(水)	●	●	●							●			●				
ガッテン(乳)									●								
カリグリーン(溶)					●	●											
カンタス(DF)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カンパネラ(水)													●				
キノンドー(FL)				●													
キノンドー40(水)																	●
クプロシールド(FL)					●								●	●			
クリーンサポート					●												
グリーンダイセンM(水)																	●
グリーンベンコゼブ(水)																	●
ゲッター(水)	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コサイド3000(DF)	●			●						●	●	●	●	●	●	●	●
コロナ(FL)										●							
サブロール(乳)					●	●	●	●	●				●				
ザンプロDM(FL)						●							●	●			
シグナム(WG)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ジマンダイセン(水)	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ジャストフィット(FL)					●	●											
ジャストミート(WG)					●												
シルバキュア(FL)																	●
スコア(WG)																	●
スターナ(水)	●	●	●	●						●	●	●	●	●	●	●	●
ストロビー(FL)	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
スミブレンド(水)						●											
スミレックス(水)					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
セイビア20(FL)	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ソータル(WG)	●	●															
ダイアメリット(DF)																	●
ダイナモ(WG)						●											
ダイマジン(水)					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ダコニール1000(FL)	●	●	●	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
テーク(水)																	●
デビュー(乳)																	●
銅ストマイ(水)																	●
ドーマイシン(水)	●																
ドキリン(FL)	●																
トップジンM(水)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

殺菌剤	キヤベツ	はくさい	プロコリ	レタ	トマ	きゆうり	ピーマン	いちご	かぼち	だいこん	やまのいも	ねづき	たまねぎ	だいす	未成熟とうもろこし	アスパラガス	にんじん
トリフミン(水)						●	●	●									
ナレート(水)																	●
ハーモメイト(溶)						●	●										●
バイオキパー(水)	●	●							●	●							
バクテサイド(水)																	●
バリダシン5(液)	●	●	●						●	●	●	●	●	●	●	●	●
パンチョTF(WG)						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ピクシオ(DF)						●											
ヒトマイシン(液)S	●																
ファンタジスタ(WG)	●					●	●						●	●	●	●	●
ファンベル(WG)						●	●										
フェスティバルC(水)	●					●											
フォリオゴールド	●	●	●	×													
フジドーL(FL)																	●
フルピカ(FL)						●	●	●					●				
プロパティ(FL)									●								
プロボース(WG)	●	●			●	×											●
フロンサイドSC																	●
ベジセイバー	●	●	●	●	×	●											●
ベトファイター(WG)						●											●
ベフドー(水)	●																
ベルコート(FL)						●	●										●
ベルコート(水)	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ベンコゼブ(FL)	●					●	●										●
ベンコゼブ(水)	●					●	●										●
ベンレート(水)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ボトキラー(水)																	●
ボトピカ(水)																	●
ホライズン(DF)						●	●										●
ポリオキシシンAL(水)						●											●
ポリオキシシンAL(乳)						●	●	●									●
ポリオキシシンAL(溶)						●	●	●									●
ポリペリン(水)						●											●
マイコシールド(水)																	●
マスターピース(水)					●												●
マテリーナ(水)																	●
モレスタン(水)						●											
モンカット(FL)	●																
ヨネボン(水)																	●
ライメイ(FL)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ラリー(水)																	●
ラリー(乳)																	●
ランマン(FL)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リゾレックス(水)	●																
リドミルゴールドMZ	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リペロ(水)																	●
ルビゲン(水)																	●
レーバス(FL)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ロブラール(水)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Zボルドー(水)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×

殺虫剤	キヤベツ	はくさい	プロコリ	レタ	トマ	きゆうり	ピーマン	いちご	かぼち	だいこん	やまのいも	ねづき	たまねぎ	だいす	未成熟とうもろこし	アスパラガス	にんじん
アグロスリン(乳)				●	●	●	●	●									●
アドマイヤー(FL)	●			●					●	●							
アフアーム(乳)									●								
ウララ(DF)									●								
エコピタ(液)					●				●								
カスケード(乳)									●								
カウンター(乳)									●								
カネマイト(FL)									●								
コテツ(FL)							●										
コルト(WG)	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コロマイト(水)									●								
コロマイト(乳)									●								
サンクリスタル(乳)									●	●							
サンマイト(FL)									●								
スタークル/アルパリン(SG)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
スターマイト(FL)									●	●							
ダニサラバ(FL)									●								
ダニメツ(FL)									●								
チェス(WG)									●								
テデオン(乳)									●								
トレボン(乳)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ニッラン(水)									●								
粘着くん(液)									●								